

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、  
まことに、ありがとうございます。  
月間通信 6月号をお送り致しました。  
何卒、よろしくお願い致します。

『明日も今日と同じ』か、『それ以上良い日が来る』  
という確信を、いつの頃から持てなくなったのか、ふと、  
過去を振り返ってみました。確か、私が 42 歳 43 歳  
の頃だったように思います。明確な何か切っ掛けの出来事が、  
社会で起こったように覚えているのですが、その内容が思い出せません。  
Windows95 が出た頃の事だったように思います。

私は不安を感じることはありませんが、それは自分の能力を信じる事が出来るからだと思えます。自分の能力を信じる力は、常に前に向かう行動とそれに対する日々の努力が支えてくれていると思えます。

その能力の内、一番大切な能力は情報収集能力ではないかと考えています。少し論点がズレますが、最近では経験と勘を頼りにすることを軽んじる傾向にあると思えます。それより過去のデータを分析して未来を推測することを選んでいっているのかなと思えます。でも、私自身はあまり過去のデータを信じていない気がします。

それより、そのデータとして残る数値が発生した環境・事由を感じ取り、その記憶に頼ろうとしています。つまり**経験**ということになりますが、この環境と事由をこれだと決めるのは**勘**という事になります。このふたつは切り離せないものですが、**その環境と、その事由があってこそ結果として残る数値を生み出している事**になります。

一昨年秋に、米国視察セミナーで、どこかの街の Safeway という老舗のスーパーマーケットを視察しました。店長インタビューと解説では、下降線を辿って

るお店で、Safeway にすれば牙城のような位置づけの店舗で、新しくエース級の人材を店長に指名してきている、との事だったと思います。なるほど、インタビューに出て来て頂いた店長さんはエリートの匂いがする方でした。その几帳面さと厳しさに指導され、店舗は陳列に於いても 1mm の狂いも無く、通路はゴミどころか埃さえ落ちていないほど、完璧な状態でした。でも、前後に視察させて頂いたお店とは、お客様の入りに雲泥の差がありました。インタビューに答えている間の店長のお顔は、『何故結果に繋がらないんだ』と多少苛ついているようにも見えました。でも、私の目には残念ながら、過去の成功を生んだ環境や事由とは時代が違々と映り、時代の変化とは斯くも残酷で、世間の冷酷さは容赦がないことを味わいました。

プロの棋士は分岐点の一手を刺す時に百手先までも読むと言います。百手先まで読んで疑問が残ればその読みを捨てる事になり、そしてまた次の手を読み始めます。そのように考えると、限りなくある一手目の全てを読む時間は対局中には無いので、勘で読む手と読まない手を決めているのだと想像しています。

私の年代では子供の頃、インドアのゲームと言えば将棋くらいしかありませんでした。幼少の頃は兄とも、どうして事のない差でしたが、物心ついて来た頃にコテンパンにやられる日が来ました。考えなきやダメだと思い、考えようとしている頭の上から「お前、考えようとしてるけど、何を考えたらええのか分からんのやろ」と声が落ちて来ました。以来、兄とは将棋をしたことがありませんが、勘だけでは勝てないのですね。やっぱり経験が物を言う時が来るのですね。

でも、でも、なんです、経験することを選ぶのは先のプロ棋士のように勘に頼るしか他ないと思えます。経験から来る勘に頼る訳ですが、経験にない場面に遭

遇した時、ではどのように戦うのでしょうか。まったくの山勘では当たるも八卦、当たらずも八卦のような占いや博打になってしまいます。確率は低いかも知れませんが、天性の博打うちという者がいることを、私は信じられます。

18歳で高校を卒業し、その同級生とその後しばらく二人で同居していた時期があります。彼は高校一年生の春、昼休みに桜を見ながらクラスの5~6人で弁当を食べていて、教室に引き上げようとしたときです。哀しそうに「俺、IQ160あるんだ」と、ボソッと言いました。その時は『それがどうかしたか』と聞き流しましたが、160という数値より、彼の哀しそうな顔が印象に残りました。二人で何のゲームをしても、まったく刃が立ちませんでした。すべて読み切ってしまうのです。それで花札なら読みは無いだろうと愚かな私は考えて、花札を始めました。でも、結果は同じで足元にも及びませんでした。悔しさも忘れ、何を考えているのかと聞きました。色々説明してくれていましたが、私はもうその説明をショックのあまり聞く事すらできなくなっていました。

ちゃんと観たことはありませんが、緋牡丹博徒という藤純子が主演していた昔の映画があります。「ようござんすか」のアレです。竹か何かの植物で編んだ壺にサイコロを2個入れて振って20cmか30cm程度の畳の上に被せ置いて、中のふたつの賽の目が奇数か偶数か当てるゲームです。ゲームとカタカナで書くより、もう少し重い事情がある気もしますが、花札より、これは天性の勘で勝負が決まるように思うので、そんなに強い弱いは無く、運という事柄が左右するような気がしません。確率とは統計上の集積から割り出されたもので、常に一定の確率が出現するものではありません。このサイコロの転がり具合に自然の摂理が関係しているかどうかは、議論の分かれるところだと思いますが、実はこの点が今月のテーマです。

この世の出来事を支配しているのは、自然の摂理だと私は感じて生きています。一番難解な私たちの気持ち、こころもこの自然の摂理によって動いていると考

えています。更に難解な時間の概念すら、自然の摂理に依っていると思えます。経済は情報の影響を多大に受け、その情報を先取りする事によって経済の世界で優位に立てるといようなことを以前に書いたと記憶しています。経済の格差も情報の取得格差に依って出来ている側面もあると思います。

人が提供する情報を受けて判断していると、その情報を提供している人より、優位に立つことは無いという事になりそうです。では、人より先に情報を得るとなると、一体何処から情報を仕入れれば良いのでしょうか。私の考えでは、この世の全てが自然の摂理から成り立っていると考えられるなら、そのすべての源である自然の摂理から情報を取得することが、一番根源的な情報に接する事になり、従って誰よりも早く情報を取得することに繋がりそうです。

何度か、天の神様と地の神様のおしゃべりと表現した事がありますが、このふたつの神様が自然の摂理の代弁者だと捉えたと、このお喋りが聞こえるようになれば、論理的には確かな情報を得ることになります。つまりもし、サイコロの転がり具合も自然の摂理に支配されているなら、このおしゃべりが聞こえ、そのおしゃべりに**素直に従う習慣**を持っていれば、博打上手になれそうで、このおしゃべりを『勘』という言葉で表現しているのではないかと疑いたくなります。ただ、このおしゃべりの言語は日本語でも英語でもなく、私の経験では塊として、実体の無い物理的な個体として頭の中にコソソという耳では聞こえない音と共に脳に入って来ます。

多分、生き物はすべてこの状態で生きてると想像しています。よく野生の動物も自然災害を自然に察知できる能力を持っていると聞きますし、虫が報せるという場合もあると聞きます。

この世は物理的に出来ていますから、情報を活かすかどうかは行動に移すか如何かに関わって来ます。そこで「信じる者こそ救われる」という言葉が生きて来ます。信じるという事はとても大切に力強い概念だと思います。

有限会社アルファー  
吉田清一郎